

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
総合内科・感染症内科部長 兼感染症センター長兼院内感染対策室長 兼臨床研修センター副センター長兼産業医	倭 正也
膠原病内科部長 兼リウマチセンター長	入交 重雄
医長兼国際診療科医長	名倉 功二(9月退職)
医 長	葛城 有希子
副医長兼院内感染対策室副室長	関 雅之
医 員	山本 雄大

膠原病内科

—概要—

不明熱や関節痛を主訴に総合内科・感染症内科外来受診となる症例には膠原病疾患と診断される場合もしばしばあり、総合内科・感染症内科全スタッフが診療を行っている。特に週2回の膠原病内科専門外来では関節リウマチを中心とした幅広い膠原病疾患に対する診療を行っている。

関節リウマチにおける臨床症状の軽減、関節破壊の進展阻止、身体機能の改善の極めて高い有効性を示す生物学的製剤およびJAK阻害薬を積極的に使用し関節リウマチの治療にあたっている。また、関節エコー検査を行い、関節リウマチの診断や治療効果判定に役立てている。関節リウマチ以外の当科で扱う膠原病には以下の疾患が含まれる。全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、シェーグレン症候群、多発性筋炎・皮膚筋炎、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、再発性多発軟骨炎、混合性結合組織病、血管炎症候群、脊椎関節症、RS3PE、成人スティル病、強直性脊椎炎、悪性関節リウマチなど。

当院は、日本リウマチ学会教育施設、日本内科学会認定医制度教育病院、日本整形外科学会認定制度研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設である。

—実績—

2021年度 膠原病内科外来初診症例

病 名・症 状	件 数
関節リウマチ	35
多関節炎	23
リウマチ性多発筋痛症	12
抗核抗体陽性	11
全身性強皮症	9
全身性エリテマトーデス	9
シェーグレン症候群	9
後腹膜線維症/IgG4 関連疾患	7
不明熱	7
脊椎関節炎	6
RS3PE	6
分類不能膠原病	5
成人スティル病	4
膠原病関連間質性肺炎	3
偽痛風性関節炎	3
線維筋痛症	3
習慣性流産	3
リウマトイド因子陽性	2
ベーチェット病	2
浮腫	2
血小板減少	2
皮膚筋炎／多発性筋炎	2
発疹	2
脱毛症	2
化膿性脊椎炎	2
ANCA 関連血管炎	1
混合性結合組織病	1
痛風性関節炎	1
封入体性筋炎	1

—今年度の成果と反省点—

関節リウマチをはじめとした様々な膠原病疾患の診療を継続した。膠原病内科初診症例には地域の医療機関からの症例も少なからずある。また地域中核病院として近隣医療機関において診断および治療困難症例を受け入れ地域医療に貢献することが出来た。

—来年度への抱負—

今後も関節リウマチ含む幅広い膠原病疾患症例の入院および外来診療を継続する。また、診療のみならず、活発な研究活動を目指す。